

順天堂医院の研修紹介

順天堂大学基幹4病院（6 附属病院群）



順天堂医院

- ・診療科37科（総合診療科を含む）
- ・病床数：1,051（一般：1,036床、精神：15床）
- ・国際病院機能評価であるJCI（Joint Commission International）認証取得
- ・臨床研究中核病院（令和2年3月24日承認）

年間データ等

- ・入院患者数：328,294人（1日平均899人）
- ・手術件数：14,482件
- ・分娩件数：1,206件
- ・救急プライマリセンター受診件数：24,645件
- ・外来患者数：1日平均 3,515人
- ・平均在院日数：10日

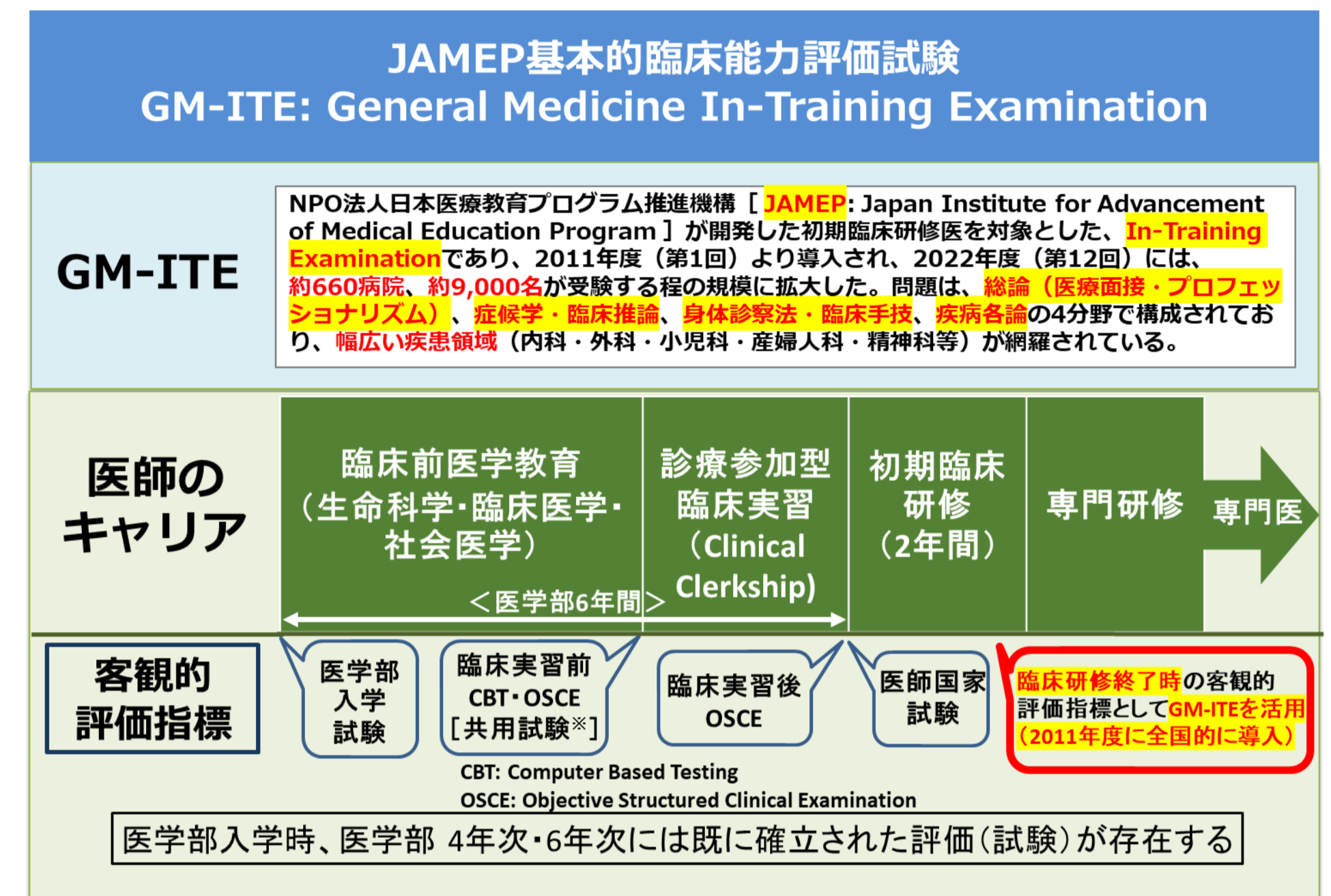
主な特徴

- ・4附属病院（基幹型臨床研修病院）各プログラム（1学年定員153名）の連携
- ・6つの附属病院（合計3,533床）の特徴を活かした研修
- ・専門研修へのスムーズな移行（基本19領域全てのプログラムを用意）
 ※新専門医制度開始してから6年度で約800名の専攻医の採用実績あり
- ・約半数が他大学出身（学閥がない）
- ・初期臨床研修と大学院(博士課程)を平行して学ぶことができる

基本的臨床能力評価試験(GM-ITE)について

基本的臨床能力評価試験（GM-ITE: General Medicine In-Training Examination）

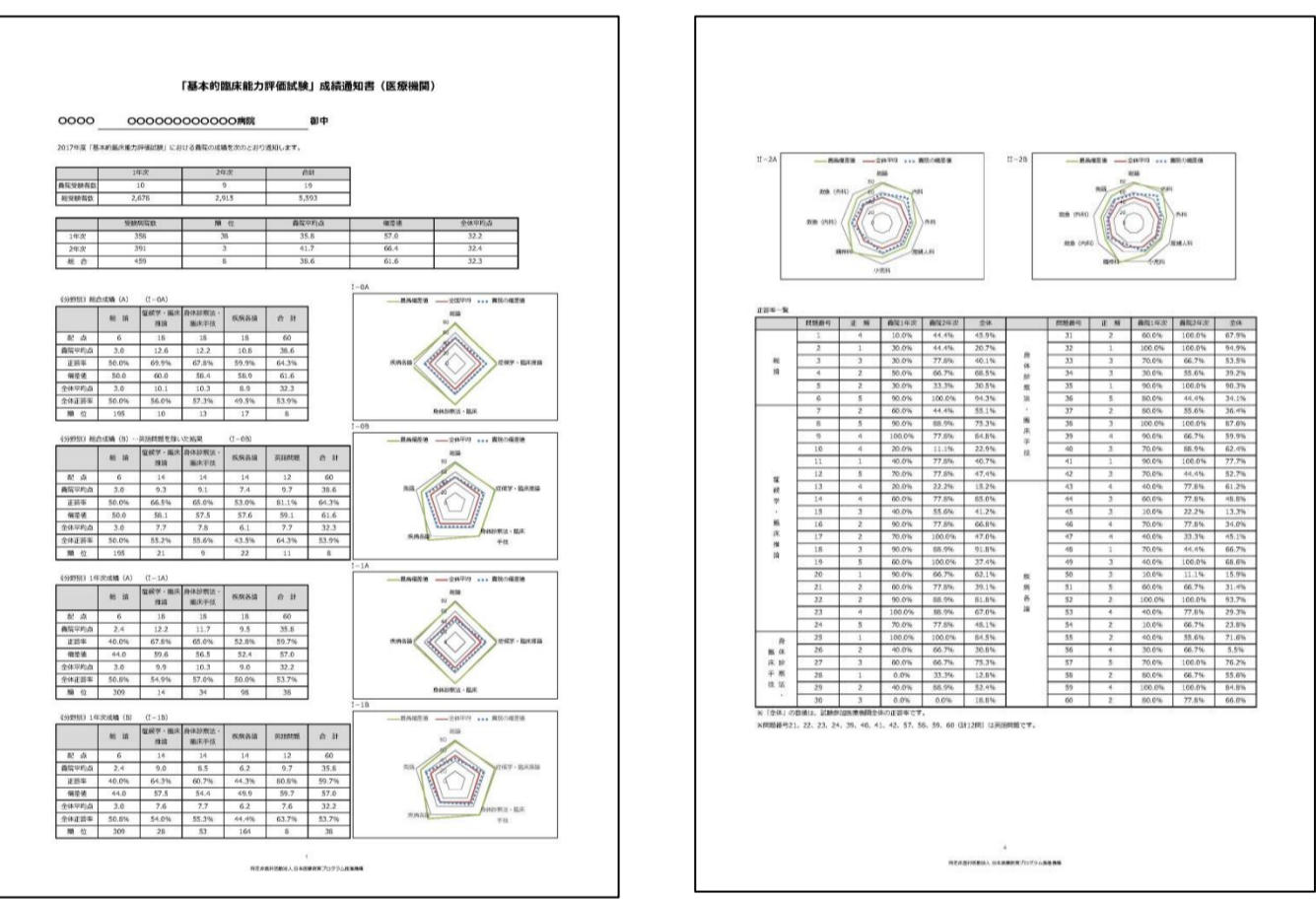
- ・初期臨床研修医を対象とした「In-Training Exam」である
- ・本試験により、初期臨床研修医の基本的臨床能力の評価が可能となり、各医療機関は、初期臨床研修医の客観的な臨床能力の実力を知ることができる
- ・試験結果を次年度の研修に役立て、今後力を入れるべき分野・領域を把握し、総合的な臨床能力を身につけるための研修指導計画の立案が可能となる
- ・試験結果は、各医療機関における研修プログラムの評価・改善にも活用できる
- ・2022年度は初期研修医約9,000名と研修医の約半数が受験
- ・研修施設としては約660施設（全国約1,000施設中）と半数以上が参加



出題範囲等

1. 医療面接・プロフェッショナリズム 2. 症候学・臨床推論 3. 身体診察法・臨床手技 4. 疾病各論
- ・選択肢は多肢選択式・単純択一形式で、問題数は80問
 - ・初期臨床研修医が経験すべきcommon disease（厚生労働省が経験目標に指定している疾患）を中心に、幅広い疾患領域を網羅
 - ・臨床研修の実践で培われるスキルが評価できるように、医療現場でのマネジメントを問う問題が多く含まれる
 - ・試験はCBT(Computer Based Testing)で行われ、一部動画問題が出題されるなど、実践経験を評価する試験内容となっている

基本的臨床能力評価試験 評価レポート（医療機関）

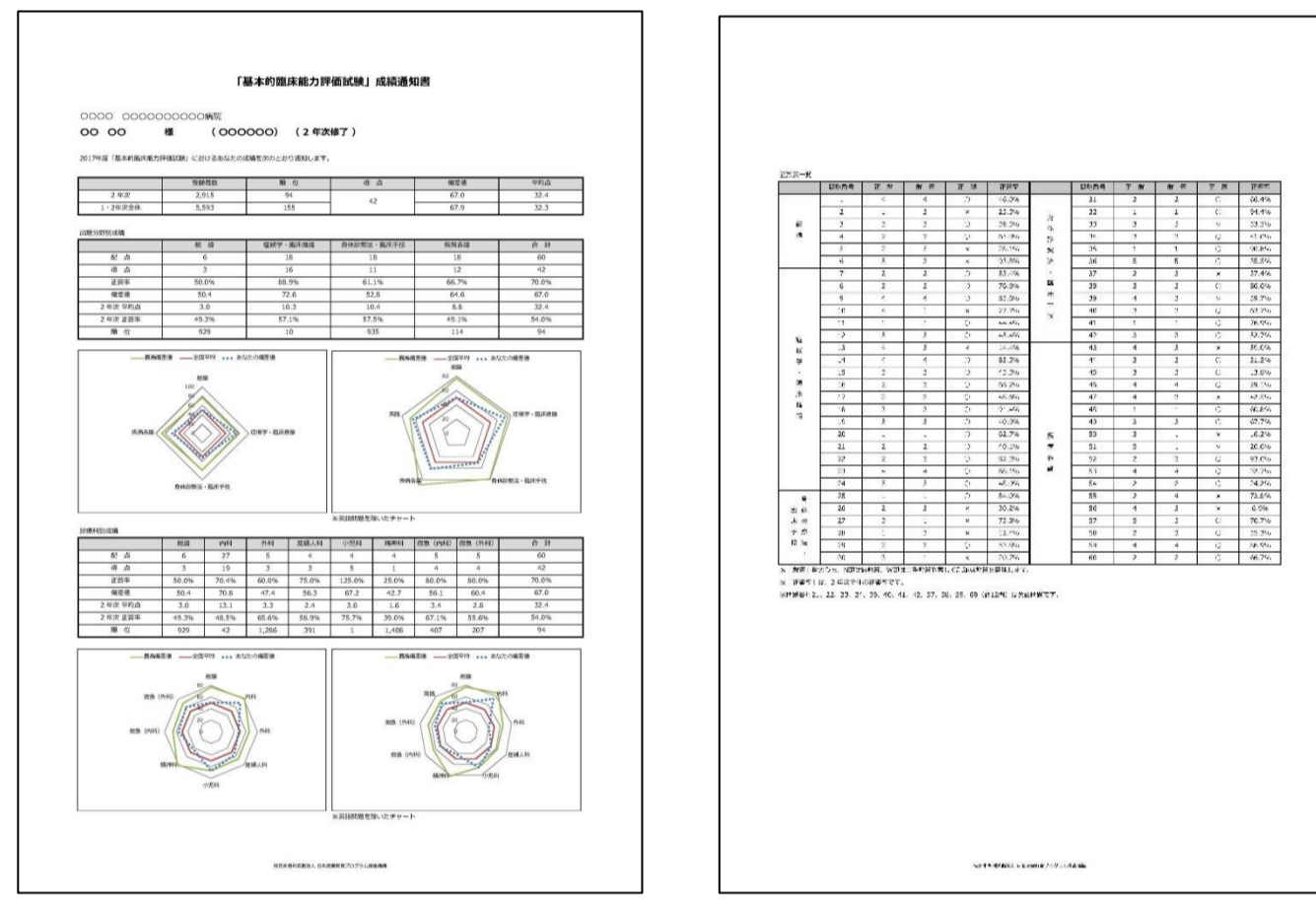


医療機関のメリット

- ・全国の試験参加機関との客観的な比較を元に、臨床研修プログラムの評価、改善にお役立ていただけます。
- ・評価レポート内容(医療機関)
 - ・医療機関(1・2年次)の平均点および偏差値
 - ・分野別・診療科別 平均点および偏差値
 - ・1・2年次別順位
 - ・偏差値レーダーチャート
 - ・問題別正答率一覧
 - ・受験者別成績一覧

診療科6領域＋総論
 内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、総論

基本的臨床能力評価試験 評価レポート（研修医）



研修医のメリット

- ・初期臨床研修1年目、2年目の各終了時点における客観的な臨床能力の実力を知ることにより、次年度の研修、または、今後力を入れるべき分野・領域を把握し、総合的な臨床能力を身につける為にお役立ていただけます。
- ・評価レポート内容(研修医)
 - ・総得点及び分野別・診療科別 得点および偏差値
 - ・年次別 平均点及び偏差値
 - ・年次別 順位
 - ・偏差値レーダーチャート
 - ・問題別正誤表

診療科6領域＋総論
 内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救急、総論

順天堂医院における基本的臨床能力評価試験(GM-ITE)を活用した研修医教育改革

2021年に実施したGM-ITEの試験結果を分析したところ、当院研修医は「**症候学・臨床推論**」が相対的に弱点であることがわかった。そこで、**成績優秀者**（偏差値70以上）に勉強の仕方や研修ローテーション内容について**ヒアリング**を実施した

成績優秀者（偏差値70以上）ヒアリング

【研修医①】
 1年目で研修した本院の循環器内科、麻酔科では自由度が高く、一人で対応する機会が多くあり責任感が芽生えた。業務終了後に平均すると1日3時間程度は自己研鑽をしていた。研修医2年目の選択ローテーションでは全ての期間(6か月)で外病院の救急科をローテーションし、多くの疾患の経験がスキルアップ向上に繋がった

【研修医②】
 日々、臨床で気になったことを研修医向けに作成された教科書等を読んで調べ、将来希望している診療科以外についても、幅広く興味のあることを学んでいた。平均すると1日1時間程度は自己研鑽していた。消化器内科を志望していたこともあり、2年目の選択科目ではメジャー内科と救急科を多く選択してローテーションした

ヒアリングを行った2人の研修医の共通点として、

- ・日々の自己研鑽が習慣化している
- ・メジャー内科、救急科を2年目に多く選択している。2年目でそれらの診療科をローテーションすることで、1年目の復習にもなり、また1年目より余裕を持って研修することでスキルが身に付いている

以上を踏まえ、ファーストタッチの経験、自己研鑽の機会増加、また指導医の指導力を強化するための方策を検討し、改革を行った

研修医教育改革

①ファーストタッチの推進
 ファーストタッチを多く経験できるよう、当直の内容を変更（症候学・臨床推論の強化に繋がる）

②研修プログラム改定
 救急科を研修医1・2年生で屋根瓦式で研修できるようプログラムを改訂

③指導医のスキルアップ・意識向上
 研修医教育におけるフィードバックスキルを全33診療科の指導医へ指導法のレクチャー
 ・1分間指導法（Micro-Skills 等）

④コアカンファレンスの導入
 各診療科の若手・中堅指導医が中心となり研修医向けの勉強会を開催
 （シュミレーションセンターを活用した、中心静脈穿刺や心エコーなどの臨床手技トレーニングも実施）



考察

医師の働き方改革の導入に向けて、研修医指導の最大効率化が求められてきている。GM-ITEの活用は、自分たちが指導している目の前の研修医たちの、強み・弱みの見える化に繋がり、次年度の研修指導計画の改訂に役立つ

利益相反：筆頭演者の西崎は、日本医療教育プログラム推進機構（JAMEP）基本的臨床能力評価試験の開発において、プロジェクトマネージャーを務めており、JAMEPから謝金を得ている